



大銀杏

根 城



南部師行公

2018年度 第8号

八戸市立根城中学校 平成30年12月5日発行

作成者 校長 木村一夫

祝賀会に花を添えた吹奏楽部



12月2日、東根城町内会創立50周年記念祝賀会が根城公民館で開かれ、町内会の会員の皆様はもとより、他町内の会長さん、根城地区の関係団体の代表の方々が出席しました。その場に本校の吹奏楽部が招かれ、25名の部員が記念演奏を行いました。

ステージは軽快な「365歩のマーチ」でスタートし、冬をテーマにした童謡に移り、その次に3人の女性歌手の代表曲が、それぞれソロ演奏付きで公民館のホールに響き渡りました。(あえて歌手名と曲名は示しませんが、“お酒は温めの～”、“ヒュルリーヒュルリラ”、“さくら さくら はな吹雪”のフレーズでピンとくるはずです。)目の前のテーブルには「温めの爛ではない酒」と「炙ってはいないイカ」があったので、ただ聴くよりは胸に迫るものがありました。演歌3曲の演奏後、予定にはなかったアンコールに応じて「ヤングマン」も高らかに奏でられ、会場には大輪の音楽の花が咲き誇りました。

乾杯後の懇談においても、参加した皆様から吹奏楽部の演奏を褒め讃える声が聞かれました。地域の方々と音楽で触れあう機会を与您いただき、ありがとうございました。本校は東根城町内に立地しているため、行事運営や通学路の環境整備等、実にいろいろな形でお世話になっています。この度の祝賀会での演奏を、町内の皆様への「感謝メッセージ」として受け取っていただければ幸いです。

本校の教育目標のキーワードの1つに「貢献」があります。地域への貢献、社会への貢献、所属集団への貢献、仲間への貢献等、さまざまな貢献がありますが、生徒一人一人がそれぞれの力を存分に発揮し、自己有用感を高めながら成長できるよう努めますので、今後とも地域の皆様方からのご支援をお願いいたします。

第4回PTA実行委員会

11月20日に標記の会議が開かれました。各委員会からはそれぞれの活動内容、それを基にした成果と課題等が報告されました。まだ3か月半ほどの活動期間が残っていますが、実行委員の皆様方には、仕事や家事等でご多用にもかかわらず、本校教育活動の充実のためにご尽力くださったことに感謝申し上げます。会議の中で、体育祭や文化祭について話題にのぼったことが3点ありましたので、それにお答えいたします。

1 体育祭の日にプール側の入口を閉鎖していたのはなぜか。

プール側を開放すれば校地内への不特定多数の進入が予想されます。不審者対策の一環として入口は正門のみとしました。

2 文化祭の前日に行われる一芸大会は保護者の参観は可能か。

今年も多く保護者の皆様のご来場でしたが、体育館に入れるどうか分からないので出掛けなかったという方もいらっしゃったようです。本校生徒の出し物は、お笑い、ダンス、隠し芸、楽器演奏などバラエティーに富んでおり、エンターテインメント性や芸術性にも優れています。多くの方々にご覧いただきたく、来年度は保護者宛にも案内(出演ではなくあくまでも参観)を出す予定です。

3 所属している委員会の活動の合間に子どものステージを見ることができてよかった。

今年も委員会活動中でも子どもたちのステージが見られるよう、3か所ほどモニターを設置し、体育館からのライブ配信をしました。それでもなかなか手を離すことができず思うように見られなかった方もいらっしゃったようですが、委員会内で活動時間を融通して体育館で参観できたという話も聞いています。ご理解とご協力に感謝いたします。



悲しみの場で出会った2つの感動



私事で恐縮ですが、先日参列した親戚の葬儀を通して感動したことを紹介します。

<葬儀参列のため北海道から帰省した甥に聞いた話>

9月6日の北海道胆振東部地震で自宅から約150km離れた街で被災。交通網が麻痺しているため、一緒にいた地元の友達の祖父母の家に避難。その友達は熱を出したため自宅へ戻る。甥は一人で祖父母宅に2泊。停電ではあったが、食事や風呂等、親切に面倒をみてもらった。避難3日目に別の友達が車で駆け付け、それに乗って自宅に戻ることができた。孫の友人とはいえ初めて会った若者を世話してくださった方の温かさを耳にし、東日本大震災でも発揮された助け合い精神と心の絆を再確認しました。

<僧侶による心に染み入る独唱>

通夜の読経が終わると、和尚さんは法話を紹介し、祖先を敬う心や故人を偲ぶ心などを説いてくれます。そこまでは従来の通夜と同じでした。その次に何か口ずさみました。別のお経かと思っていたら、それは歌でした。新井満さんをはじめ、多くのアーティストが歌っている“この街で”という曲です。歌詞の概要は、「この街で生まれ、育ち、出会い、母になった。」から始まり「この街でいつかおばあちゃんになりたい。おじいちゃんになったあなたと歩いてゆきたい。」と続きます。和尚さんの声のよさに加えて、故人に代わって歌っているような温かい心持を目の当たりにし、言葉にできない感動を覚えました。